

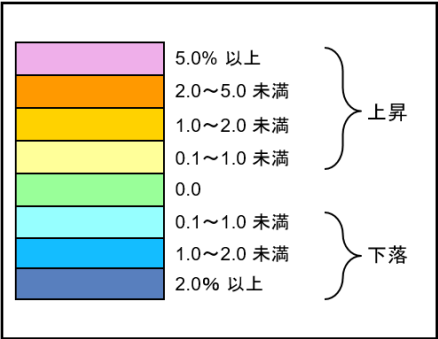
大阪圏の商業地

※（ ）は前年変動率

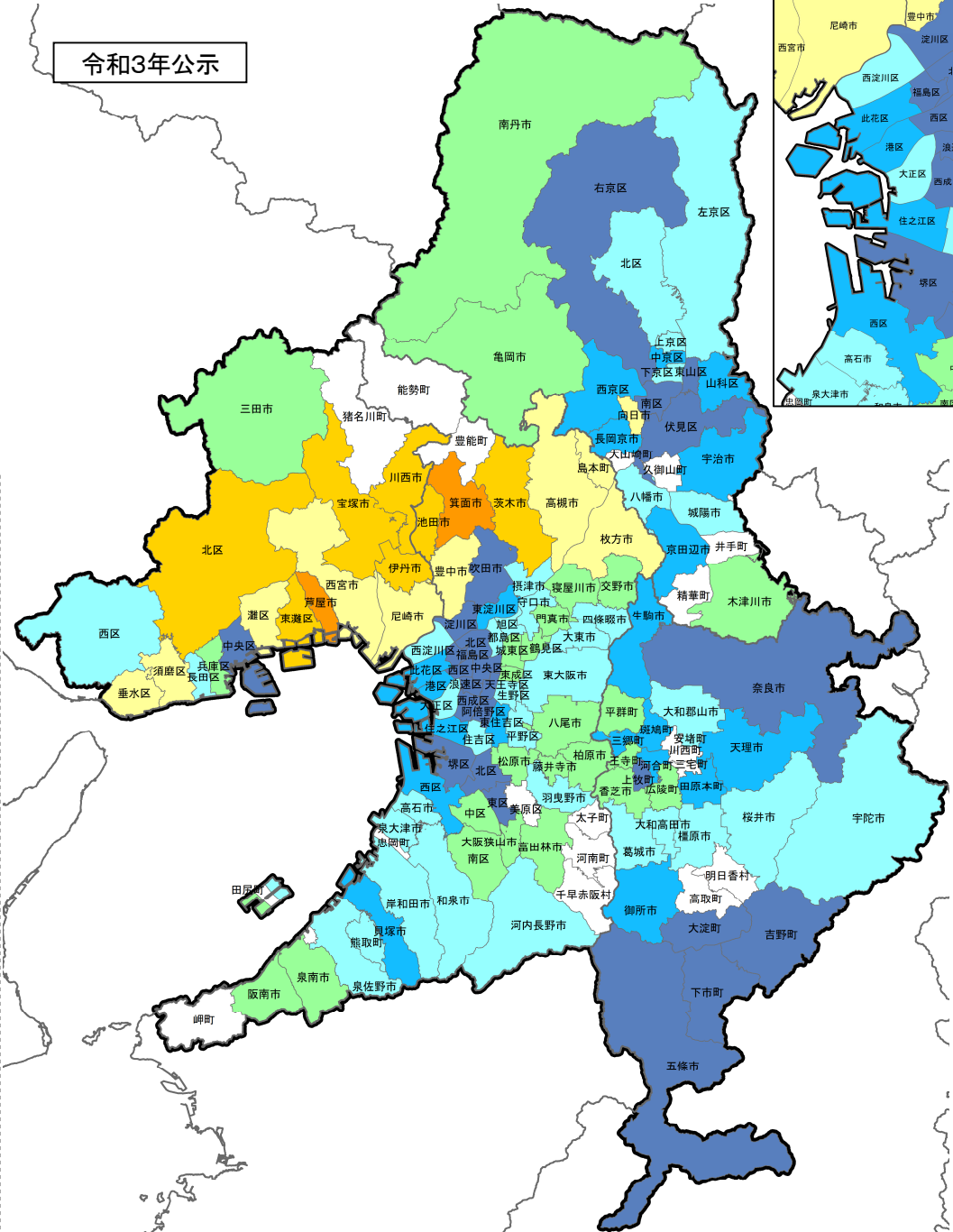
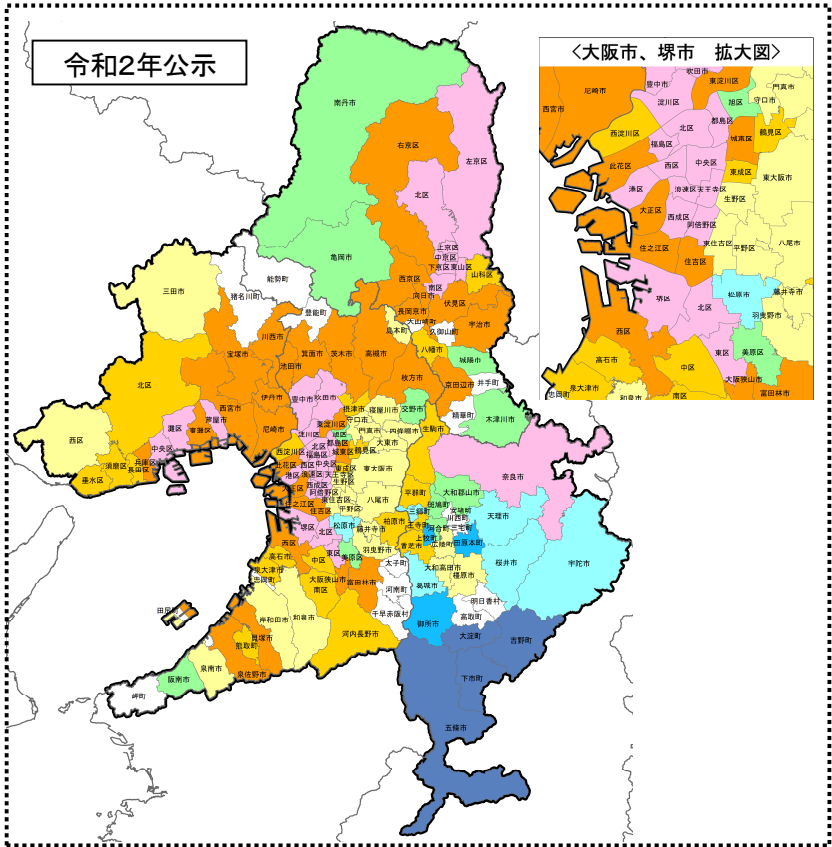
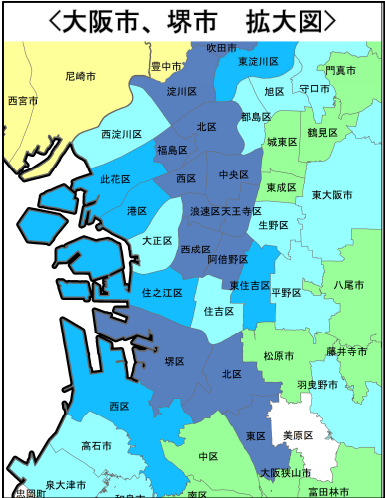
京 都 府	○ 京都市では、2.1%下落(11.2%上昇)。国内外の観光客減少から収益性の減退が見られ、全ての区で上昇から下落となった。 ・ 観光地周辺での店舗需要や宿泊施設需要が旺盛であった東山区は、6.9%下落(23.9%上昇)と各区の中で最大の下落となった。 ○ 京都市以外の圏域内市町では、0.7%下落(2.0%上昇)。店舗需要は総じて弱く、9市のうち、向日市は上昇率が縮小し、3市で横ばいが継続、5市で上昇又は横ばいから下落となった。
大 阪 府	○ 大阪市では、4.4%下落(13.3%上昇)。全24区のうち東成区、城東区及び鶴見区が上昇から横ばい、他21区が上昇又は横ばいから下落となった。 ・ 梅田・心斎橋・なんば地区では、コロナ禍により国内外の観光客が減少し、店舗・ホテル需要が大きく減退した。 ○ 堺市では、1.6%下落(6.5%上昇)。中区及び南区の2区で横ばい、他は上昇から下落となった。 ○ 北大阪地域では、北大阪急行延伸部沿線の箕面市を始め、豊中市、池田市、高槻市、茨木市及び島本町で上昇が継続している。 ○ 東大阪地域及び南大阪地域では、枚方市は上昇率が縮小し、交野市は横ばいが継続し、その他の市は上昇から横ばい又は下落となった。

兵 庫 県	○ 神戸市では、1.8%下落(6.0%上昇)。5区で上昇が続いているが、上昇率は縮小した。兵庫区は上昇から横ばい、中央区、長田区及び西区は上昇から下落となった。 ・ 中央区三宮地区では、コロナ禍により、店舗・ホテル需要が減退した。 ○ 阪神地域では、三田市が上昇から横ばいとなったが、その他の市は上昇が続いているが、上昇率は縮小した。
奈 良 県	○ 奈良市では、5.2%下落(7.8%上昇)。近鉄奈良駅、JR奈良駅周辺では外国人観光客の増加等を背景とした店舗・ホテル需要が減退し、上昇から下落となった。 ○ 北部及び西部では、大阪近郊の市町で上昇から横ばい又は下落となった。 ○ その他の市町では、下落が継続している。

市区町村別の状況（大阪圏・商業地）



令和3年公示



※圏域内の白色部分は、継続地点が設置されていない市区町村である。